



静岡県土木施工管理技士会

■世界遺産登録2周年

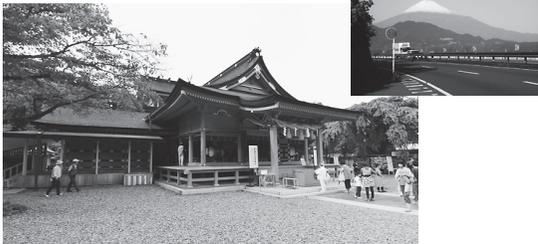
2013年6月“富士山”の世界遺産一覧表への記載が決定されました。記載する名称は（富士山－信仰の対象と芸術の源泉）です。富士山は自然遺産ではなく文化遺産として認められました。

富士山は、静岡・山梨両県にまたがっていますので、その価値を構成する資産も両県に点在しています。

その昔、富士山の噴火を鎮めるため麓には浅間神社が建立され、富士山を浅間大神として祀りました。富士宮市にある富士山本宮浅間大社は浅間神社の総本宮とされています。

静岡県内には、他にも構成資産として富士宮市の山宮浅間神社と村山浅間神社、裾野市の須山浅間神社、小山町の富士浅間神社が登録されました。

富士山本宮浅間大社



噴火活動が沈静化した平安時代後期以降、富士山は崇拜する山から、登拝する山へと変化していきます。室町時代後半になると、修験者だけでなく一般庶民も登拝するようになり、富士登山が大衆化されます。

江戸時代中期には“富士講”として、関東を中心に大流行し、人々が富士登山や白糸ノ滝等の霊地を巡礼するようになりました。

現在、富士山には4つの登山口があり、

そのうち3ルートが静岡県にあります。最も標高の高い位置から出発する富士宮ルート。下山の大砂走りがダイナミックな御殿場ルート。高い位置まで樹林帯が広がる須走ルート。富士登山は、自分の体力に合わせたルート選びが大切です。



白糸の滝

■県道223（フジサン）号線

静岡市清水区の清水港と伊豆市土肥港を結ぶ駿河湾のフェリー航路約30キロが県道223号線です。海の上の県道なのです。この道路（海路）の最大の魅力は、なんといっても富士山の眺望です。ICOMOS勧告で除外すべきとされ、最後まで登録が心配された“三保松原”もあります。三保松原を手前に配した構図は富士山画の典型となり、多くの芸術作品を通じて、富士山を望む景勝地として知られています。

■40周年

静岡県技士会はおかげさまで来年40周年を迎えます。これからも、会員の資質及び社会的地位の向上を図り、良質な社会資本整備を目指します。

静岡県技士会の生い立ち

昭和51年6月 静岡県土木施工管理技士会設立
 昭和63年1月 社団法人に移行
 平成24年4月 一般社団法人に移行
 平成28年6月 設立40周年を迎えます。